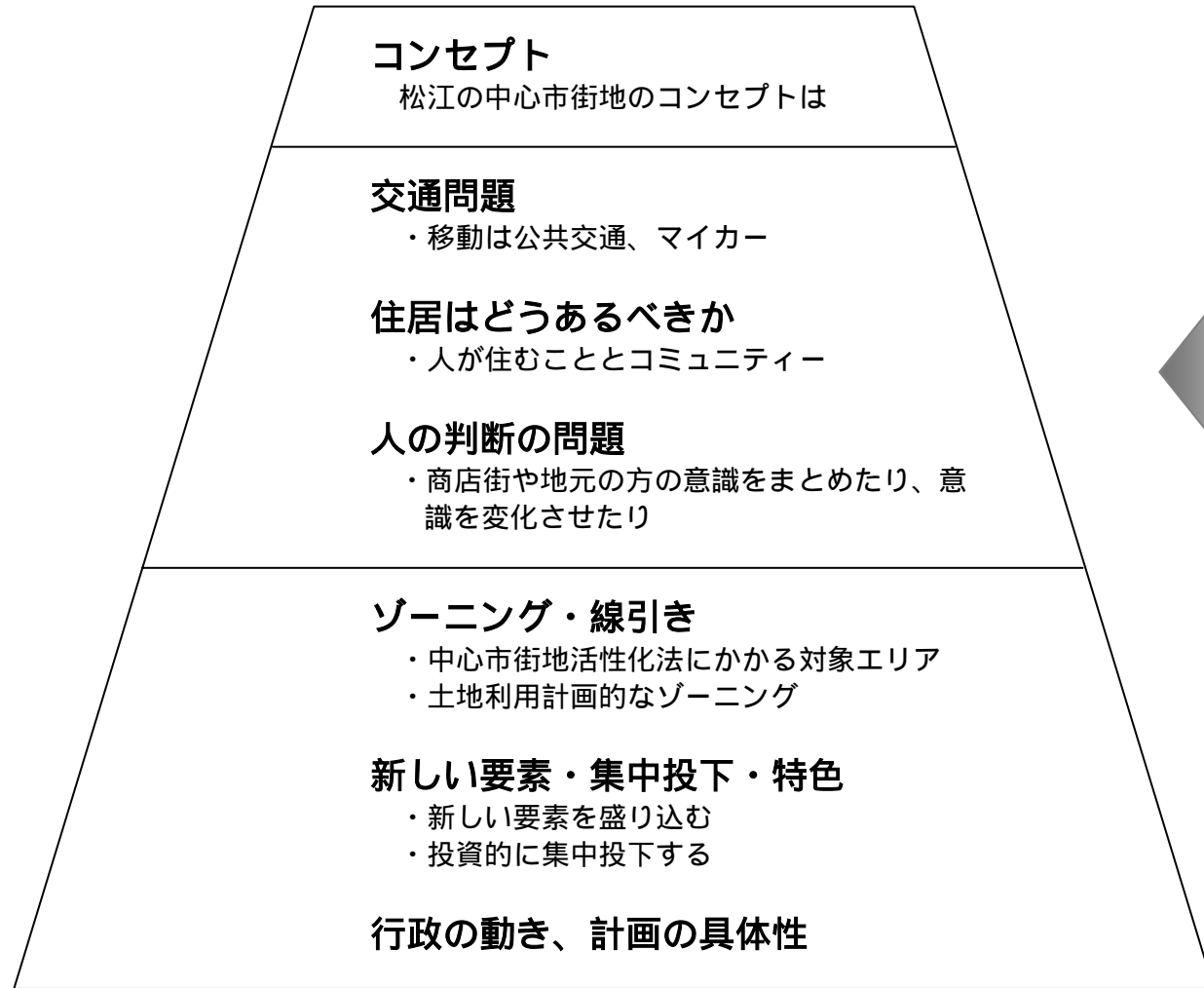
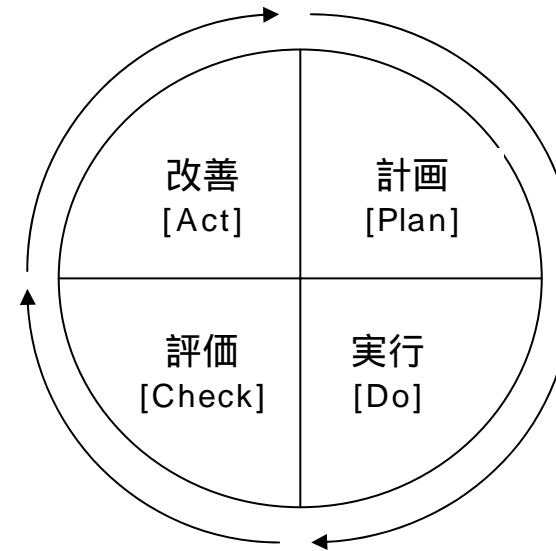


第一回、第二回の対策協議会での意見

【論 点】



【PDCA サイクル】



【今までの反省点】
過去の施策の評価が不十分
具体的なDCAの検討が今までなかった。
計画は、されても実施していく体制の検討が今までなかった。

【国が認定で求めていること】
SWOT分析(強み・弱み・チャンス、脅威)
松江にあった戦略ビジョン
ビジネスプラン PDCAサイクル

【大切なこと】
ビジョンと価値判断
何のために評価するのが重要である。
評価には、このまちをどうしたいかというビジョンが前提にある
事業にプライオリティをつけるには、価値判断の議論が必要
ビジョンとあわせて価値について議論が必要
評価は使われないと意味が無い
評価を使うための、体制がしっかりしていないと意味が無い

【具体的な意見】

1. 松江市中心市街地対策協議会

松江市中心市街地活性化基本計画案を策定し市に提案(幅広く意見を集め、市民感覚で進めていく)国の法律や制度と絡めて、一定の基準で協議会の内容を決めていく協議会で議論された内容で、予算、総合計画、都市マスタープランなど他部署との調整については、事務局が調整を行い、本協議会に報告しながら整合性を図っていく。協議会で議論した結果が、市の意思決定そのものになる。将来ビジョンなくして、基本計画を考えるのはあり得ない。大橋川周辺のまちづくりの是非論は、議論できないが、視野に入れて考えないといけない。

2. 中心市街地は必要か

今まで培われてきたストック(目に見えるもの、見えないものも含めて)が中心市街地にはあり、中心市街地は、必要である。また、あるものを掘り起こしていくという点でも、中心市街地は必要だ。「歩いて暮らせるまちづくり」「住み続けるまちづくり」のためにも、中心市街地というものを、どんどん活用して元気になっていく必要がある。中心市街地の状態について、一般の市民は「別に」と思っている人が多い

3. 地域の動き

松江しんじ湖温泉地区
・地区のランドデザイン的なものがほぼ煮詰まってきた
・松江しんじ湖温泉駅北側に、一畑が温泉地区と一体となった計画をしている。

殿町地区

・殿町を中心に「まち歩き観光」を促進していく目的で、「松江まちづくり会社」が設立。「蓬莱荘」の改修工事を行っている。民間主導で継続的に活性化が出来るような仕組みを作りたい。
・松江まちづくり会社、近隣の南殿町商店会、京店商店会、NPO 松江ツーリズムと共同イベント計画
・カラコロエリア(南殿町・京店)で地元主体の委員会が立ち上がっている

天神町

・市立病院が移転し商店街は、厳しくなっている。
・商店街自体の経営が厳しくなり、集まりも悪くなっている。
京店
・物販より食関係の店で人を集めたほうが良いと感じている。
・空き店舗に食関係のお店が出だしている。

4. 活性化を考える上で

魅力があれば、人は集まる。松江ならではの魅力を作ることが必要
地元、当事者が頑張ることが一番大切。商店主自ら便利な中心部に住むことが必要。
お互い協力し、応援し合えるような体制が必要。コミュニティ、人と人とのつながり、地域の連帯感外に向けて中心市街地の意味をアピールすることが必要
新しい素材の導入、税制上の優遇など目に見える形の手法の検討
ポイントを絞り、そこに集中投下すれば、松江が魅力あるまちになり、別の機能も後からついてくる。
中心部のそれぞれの機能を、ある程度特化した形で持っていく必要がある。

5. その他

当事者問題、土地の所有と流動化が起こらないこと